

令和2年度（2020年度） 鴻池小学校 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和3年 2月24日（水）18:00～19:15

2. 場 所 鴻池小学校 会議室

3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・寺西副会長・北田委員  
堤委員・清水委員・馬殿委員・奥野委員  
教職員 : 校長先生・教頭先生  
その他 : 水國（ディレクター） 欠席者 溝口委員1名  
教育委員会より：江原教育委員・京野指導主事・橋本指導主事

4. 学校長あいさつ

早いもので今年度も一か月余りとなり、まとめの時期となりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大で予定していた行事が中止や規模縮小となり、振り回された1年だった。初めてのことで、何が正しいのかも分からない中でしたが、これまでにしてきた行事等のあり方をどうあるべきか考えられた1年だったかなと思う。タブレット端末が来年度には一人一台持てるようになる。先生がすぐに馴染めるのか、ICT支援教員が来年度配置されることが決まっているが、常駐ではない。子ども達に公正な教育を与えられるよう前向きに捉えて考えていきたい。

本日のテーマは学校関係者評価です。よろしくお願いいたします。

5. 内容

(1) 3学期の学校運営について

1月13日からまた緊急事態宣言が出されたが、前回とは違い、見通しをもってできた。3学期の参観が出来なかったことが非常に残念。

手洗いとマスク着用は徹底。2学期までは休み時間は外してOKだったが、マスクを外すリスクが言われている為、3学期はマスク着用を徹底して活動。調理実習はダメ、合唱・合奏もダメと言われているが、本校にはランチルームを使用して合唱や鍵盤・リコーダー等を行えた。今後どうつなげるかまた考えていきたい。

今日、1年生では1年生になって出来るようになったことを発表していた。本来なら参観で保護者の方にも見ていただきたかったのですが、子ども達は発表を見合い、出来るようになったことを認め合っていました。

(2) 学校関係者評価について

大きく三つに分けています。

- ①学力の向上
- ②豊かな心・健やかな体
- ③開かれ信頼される学校園

## ①学力向上

○家庭学習と学校がリンクしないと定着しない。

○コロナ禍で1冊/週しか貸出できなかった為、読書数が少なかった。今日配布の学校通信にも本を紹介したりして発信している。親が子どもに絵本を読み聞かせることで、その内容よりも親の温かさや匂い等が子どもに記憶として残る。是非親子で本に親しむ時間をもってほしい。

○支援学級在籍は1～6年で現在40名。伊丹特別支援学校との毎年している交流が今年はできなかった。

●読書について教師は90%だが、校長先生の想いのギャップはなに？

→教師は朝の時間に読書の時間を設けたこと、毎週図書を持つことが出来ていることでの90%。ただ、それだけではいけない。それをきっかけに「もっと読みたい」「他にも読んでみよう」と繋がらない。子どもと教師の評価の差が大きい。タイミングもあるかと思うが「よう読んだね」等の教師の声掛けがないのかもしれない。もっと改善していかないといけないと感じている。

●保護者の評価が低いところには小学校になって読み聞かせしてあげていないというような思いもあつてのことだと思う。又、ゲーム「どうぶつの森」等のおもちゃの進化も本離れの原因の一つだと感じる。本を開いて空想の世界に入らなくてもゲームの中で自分が主人公になってストーリーを作れる世界に入れる。

●コロナで図書館に出入りにくいことも要因の一つかと思う。図書室には本の返却と借りにいだけとなり、図書委員会の読み聞かせや図書館ビンゴも今年はなかったから残念。

●きららの図書館によく行っていたが今年はほとんど行かなくなった。子どもがコロナに対する警戒があり、不特定多数の人が触るものを借りたくない、外の本は触らない方がいいと言い、コロナに対する怖さも本離れの原因の一つかと思う。今年度に関してはこの数字でも致し方ないと思う。

●学校は読書を大事に考えている。家で親が活字を読む姿を見せるというのが大事。親が本を読まない家庭は子どもも読まない。新聞5分でもいい。活字に触れる姿を見せてやってほしい。

→共働きの方はなかなか時間がない。子ども達は本を読むことが好きだけど、本以外に色んな刺激がある。何らかの形で本に触れる機会が家庭でももてるようになったらいいなと思う。

●教師は支援学級の子について理解しているか？

→研修会や研究授業等で理解はできていると思う。誰にとっても居心地のいい学級・自分の居場所のある学級ということをどの先生も意識してくれている。

●個に応じた教育については、外に見えてこないから評価しづらい。支援は学年によって決まっている？（低学年は国算、高学年になったら教科が増える？）支援学級の子たちが関わり合える時間はあるのか？

→支援内容は決まってるわけではない。個に応じて対応している。支援計画

を立てて支援している。支援学級の子ども達が集まるのは週に1回。凧あげをしたり、制作したりする。

●サポートファイルについて。保護者が思いを込めて書いているのに「分かりました」の返事だけで不満に感じることもあるそう。先生によって違うと聞く。

→先生にもっとこうしてほしい、もっと書いて等、保護者の声をそのまま教師に伝えてやってください。皆発展途上にあるので、何でも言ってやってください。一度見てみます。

## ②豊かな心・健やかな体

○月間目標、毎月立てているが、「廊下は歩こう」の目標なのに注意する先生・しない先生がいる。2月は「外で遊ぼう」だけれど、教室に沢山子ども達が残っている。子ども達の評価が低いのは、教師の声掛けが少ないからだと感じる。目標が浸透していない時もある。意識改革必要。

○あいさつ運動は委員会活動としても行っている。鴻池の子ども達はあいさつができる。どちらが先なのかは問題ではなく、気持ちの良いあいさつが出来るようになってほしい。気持ちの良いあいさつとは、相手の目を見て笑顔で。教師にも同じようにあいさつしてと伝えている。

○行間休みの時間確保により、体作りの推奨については、子ども達の評価は41%だけれど、実際はもっと多いと感じている。高学年になると外に出る事が少なくなるけれど、教師の声掛け次第かと感じている。今年度はスポーツ委員会のイベントがもてなかったのが残念だった。

●月間目標は6学年全員の目標なのですごく難しいのではと思う。

→難しい目標ではない。振り返っていないから出来ないし、浸透しない。目標を立てているだけになってしまっている。意識改革をしていきたい。

●せっかく目標を立てているのに子ども達に響いていないのはもったいない。

●学校評価の項目がそもそも多すぎるのでは？達成しにくいものを沢山掲げるよりも、もっと絞って成果に結び付けて行けるものに的を当てたら？

→教師に意識してほしいこと、持っておいてほしいことであるので、絞ってしまうとそれだけでいいんだと思ってしまう。アンケート項目は100ほどある。来年度は自尊感情の項目を入れたいと思っている。アンケートも、「自分には良いところがある」を「自分には良いところがあって、人の役に立ちたいと思っている」と変えたい。子ども達には自分の思いを自分の言葉で言える子になってほしい。

## ③開かれ信頼される学校園

○4月からHPの閲覧が20万件達成しました。休校中には学年毎に発信していたが、その時だけになってしまったので、先生方にも発信してほしいなど思っている。今は教頭先生が子ども達の様子を毎日発信してくれている。

- 全体を通してバランスをとって教育することは大変だと思う。個を大事にすると全体が疎かになってしまうし、全体を大切にすると個が疎かになる・・・先生方ほんとに大変。  
→個も大事にしながら個と全体のバランスの取り方を考えて教育している。

時間の関係上、学校関係者評価は後日提出いただくことになった。

### (3) 来年度の学校運営方針について

来年度も学校教育目標は「ひとみ輝き 笑顔あふれる 鴻池小学校」で変更なし。目指す子ども像は「やってみようと言える子」を加えようと思う。鴻池プライドを子ども達から募集してみようかなと思う。子ども達に鴻池の学校の事や地域の事、自慢してほしいと思う。マスコットがある学校は初めて。こうくんに加え、こうくん活性化プロジェクトとして昨年度の6年生が投的板に絵を書いたり、こうくんの友達「いけちゃん」を作った。もっともって自慢していきたいと思う。

### (4) その他

- ・委員改選に伴う委嘱手続き

馬殿さん、奥野さんは退任。清水さん、堤さんは引き続き来年度もお願いします。阪田さん、寺西さん、北田さんについてはそのまま引き続きお願いしたいと思っています。よろしくをお願いします。

溝口さんは来年度もPTAの顧問として残るので、来年度もお願いします。承諾書を阪田さん・寺西さん・北田さん・堤さん・清水さんに渡す。

- ・卒業式についてのハガキを渡す

## 5. 閉会あいさつ

皆様お疲れ様でした。丸1年コロナに振り回されて、何も出来ない1年でした。早く収束することを願うばかり。お話を伺っていると本当に先生方が大変過ぎて、子ども達の為に有難く感じる。少しでも応援できるような活動が来年度できればと思っている。今後ともよろしくをお願いします。(阪田会長より)